

レポーティング(年次:2020年9月末時点)

グリーンボンド発行残高が対象資産残高を上回っていないことの確認

当社、トヨタファイナンスが発行したグリーンボンドについて、発行残高が直近の対象資産残高を上回っていないことを以下の通り確認いたしました。

2020年9月末時点

対象資産残高		本社債の発行額
割賦/リース資金(仕入代金等)を目的とした販売店向け融資のうち 適格クライテリアを満たす対象車の集金保証債権見合いの融資債権	3,137億円	600億円
適格クライテリアを満たす対象車の立替払い残高	552億円	
合計	3,689億円	600億円

また、2020年9月末時点の対象資産残高全体から想定される環境改善効果
(車両の走行段階におけるCO2排出抑制量の推計値)は以下の通りです。

対象資産	環境改善効果(CO2排出抑制量)	
	対象資産全体	発行残高(600億円)見合い
割賦/リース資金(仕入代金等)を目的とした 販売店向け融資のうち適格クライテリアを満たす 対象車の集金保証債権見合いの融資債権	973,569t-CO2	158,353t-CO2
適格クライテリアを満たす 対象車の立替払い残高	205,830t-CO2	33,479t-CO2
合計	1,179,399t-CO2	191,832t-CO2

【対象資産】

- トヨタ販売店における割賦/リース資金(仕入代金等)を目的とした販売店向け融資のうち
適格クライテリアを満たす対象車の集金保証債権見合いの融資債権
- 適格クライテリアを満たす対象車の立替払い債権

【適格クライテリア】

トヨタ/レクサス車の乗用車のうち、電動車。

なお、電動車とは、HV(ハイブリッド車)、PHV(プラグインハイブリッド車)、FCV(燃料電池自動車)を指し、HV・ガソリン併売車については、HV車のみを対象とします。また、クルマ1台当たりの平均CO2排出量を「2050年までに2010年比で90%削減」することを目指すトヨタ自動車株式会社の「新車CO2ゼロチャレンジ」実現に資する構造であり、同クラスのカソリン車・LPG車よりもCO2排出量が少ない低公害車を対象とします。